

次期最終処分場（第7期）基本計画策定委託について

1. 最終処分場の現状と課題

最終処分場では現在第6期最終処分場にて埋立処理を実施しており、今後の埋立量が一般廃棄物処理基本計画(R5.12版)における計画ごみ処理量を基にした埋立量(約7,000m³)で推移した場合、令和15年度早期、R4～6の測量平均の年間埋立量約7,900m³で推移すると算出すると、令和14年度早期に埋立完了する見込みに埋立終了する見込みである。

近年、リサイクルセンターの故障により、プラごみを最終処分場で受け入れざるを得ない状況が多発している。計画外のごみの受け入れにより、埋立終了年度が前倒しになる可能性が高く、次期最終処分場の整備計画を早急に立案し、受け入れ体制を確保する必要がある。

また、現在の管理・計量棟が供用開始から40年以上経過していることから、その更新も含めて検討する。

【施設ごとの処理量の推移】

廃棄物処理の概要 P18 参照

2. 基本計画策定について

【目的】

次期最終処分場全体の地層地質の分布状況を把握し、埋立地の造成計画を行うために必要な基礎データを得ること及び恵庭市が計画する7期の用地において埋立地等の主要施設の配置等の検討及び概算事業費を算出し、最終処分場の基本的事項を定めることを目的とする。

【検討内容】

- ・埋立地構造形式の検討
- ・概算工事費の算定
- ・事業手法の検討
- ・整備スケジュールの検討 等

3. 今後のスケジュール（予定）

R8 第7期基本設計（用地確定測量・地質調査含む）、生活環境影響調査

R9 防衛補助要望

R10 第7期実施設計

R11～13 第7期整備工事

R14 新最終処分場供用開始